

報告：大学における「ライティング」 授業改善に関する総合プロジェクト

西田 正 (代表)

広島大学総合科学部

はじめに

広島大学では平成9年度より新しい英語のカリキュラムを実施している（具体的には『広島大学教養的教育改革実施要綱』ならびに、『平成9年度教養的教育開設授業科目一履修の手引』を参照）。その特徴のひとつは、1年次から4技能を柱とする技能別科目を導入したことである。新設された「ライティング」の授業は1年次生対象の「ライティングⅠ」と2年次生対象の「ライティングⅡ」から成り、学生にとっては1年次から2年次へと学習を継続できるようになった。一方、教授者には、2年に亘る系統的な「ライティング」の授業を準備し、より綿密な計画を立てる必要が出てきた。

本プロジェクトでは、新カリキュラムの教育理念を具体化する一つの試みに、「ライティング」授業を改善するための試案を提供する。そのために、まず、大学生の実態を把握し、改善の方向を探り、具体的な改善策として大学生用の教科書を編纂することを検討した。

I. 大学生の「ライティング」能力

1) 英語学力

英語を書く能力は、日本語表現力とともに、英語の文法、語彙、などの英語学力に依存している。ある研究では、英語の作文力の75%がこの両能力によって説明されると言われている。ここで重要な点は、書く能力を向上させるには、日本語の作文力はもとより、英語の一般的な学力があることが前提となる。書く能力は「書く」活動を通して伸びると同時に、その活動を支える豊富な語彙、適切な表現、関連した文法知識を身に付ける必要がある。大学生の書いた作文を見ると、使っている語彙や表現が貧弱で、論理的つながりに欠け、また、内容に一貫性がないことに気づく。

2) 書く経験

外国語の習得には経験が必須な要素である。大学生の「書く」経験は大学入試に出題される「和文英訳」に集中している。ここで求められている作業は与えられた日本語の文章を英語に翻訳する作業である。翻訳である以上、与えられた日本語を対応する英語に置き換える活動であるから、書く内容を自分で考える必要は全くない。このような経験の結果、大学生には共通して、「書く」ことの主体が自分であるという自覚が薄い。従って、話題に関する自分自身の考えを明確にする努力もなく、それを英語で表現する訓練が「ライティング」であるとの自覚も見られない。しかし、これはひとえに大学入試対策が成した業であって、大学生だけが非難されるべきではないであろう。

3) プロダクト優先の授業

多くの大学生が高校で経験している「ライティング」では、翻訳のでき具合が評価され、最終的な出来上がりに至るプロセスは無視されている。大学生の多くは、完成までに幾度か文章を修

正を加えたり、推敲の作業を繰り返して自分の意図した内容が適切な表現によって表出されているかを判断せず、草稿そのままを提出する。いわば、殴り書きに近い作文でこと足りると考えている。つまり、文法的な誤りを訂正したり、使用語彙の適切さを判断したり、スタイルの差を意識しない。

II. 「ライティング」を改善する基本方向

以上のような大学生に見られる「書く」経験を元に、以下、3つの視点から「ライティング」の改善を考える。

- 1) コミュニケーションの手段
- 2) プロセスを重視する授業
- 3) 自立した書き手の養成

1) については多くを語る必要はないであろう。しかし、学生を取り巻く現実の世界では英語をコミュニケーションの手段として認識する傾向がますます強まっている。最近のインターネットの盛況ぶりも共通言語としての英語の地位をさらに高めつつある。電子メールやインターネットが情報の収集源に、また情報の交換の場に利用され、英語を書く経験は拡大の一途である。さらに、留学、海外旅行や滞在なども学生にとっては普段の生活の一部となっており、このような新しい状況に対応できる「ライティング」の学力を授業で養成せねばならないであろう。

2) プロセス・ライティングを取り入れた授業では、書くプロセスを段階別に分けて指導する。書く内容を考え、ある程度まとめる prewriting の段階、それを文章で表現する drafting の段階、草稿をいろいろな観点から見直す reviewing の段階である。

最初の previewing では、書く話題を選び、書く目的や相手を明確にし、話題に合った構想を練り、書く内容の概要を決める。この準備段階では、学生の発想、アイデアを重視する。次の drafting 段階は、内容の文章化である。英語の語彙や構文を駆使して英語のパラグラフを構成していく作業である。最後の reviewing の推敲の段階では、スペリングの訂正から、冠詞や接続詞などの文法上の誤りの発見訂正、文章のつながり、論理の一貫性などをチェックする。また、読み手の立場になって文章化した内容が相手に十分伝わるかどうかの検討も必要である。

3) 「ライティング」の授業の最終目的は、適時辞書や参考書を参照しながら、自分の力である程度のスピードで自分が伝達したい内容を表現できる「書き手」の養成である。授業での練習や教師からの指導を受けた後は、それを踏み台にして書く経験を重ねて自立して行く。この自立を助けるのが、「ライティング」の授業内容であり、目的である。

III. ライティング用教科書の編纂

このプロジェクトでは、以上のような認識のもとで、海外で出版されているライティングの教科書を収集し、トピックス、スタイル、機能、文法配列、などから検討し、日本人大学生に適したテキストを作成するための参考資料とした。分析検討した海外の教科書はリストに示した。

その結果、「ライティング I」の教科書は次ぎのような内容を持つのが望ましいという結論に至った。

1. writing greeting cards
2. writing post cards
3. writing notes

4. letter of inquiry – asking for information
5. letters of invitation, acceptance, and refusal
6. letters of thanks
7. letters of advice
8. filling in official forms
9. writing CVs and job application
10. letters of complaints and apology
11. giving a speech
12. opinion in writing – for and against
13. instructions and directions
14. writing a film or book review
15. summarizing

その特徴は、日常生活で必要と思われる基本的な機能（挨拶、質問、謝辞、招待、など）を中心に内容を構成し、豊富な実例を多数盛り込み、実際に書く段階的練習を準備することである。今後、さらに検討を加え、平成10年度の授業に間に合うよう目下編成作業を進めている。

本プロジェクト参加者

広島大学教育学部 三浦省五

広島大学教育学部 松浦伸和

広島大学学校教育学部 深沢清治

広島大学総合科学部 西田 正

参考文献

青木信之, 西田正, 深沢清治, 森千鶴, 多良静也, 三浦省五 (1995) 「ライティング (英語教育学モノグラフシリーズ15)」『英語教育』(大修館書店) 44巻 8号 pp. 62-86.

(検討したライティング教科書一覧)

- Blanchard, Karen and Christine Root (1994) *Ready to Write* (2nd Edition). Addison Wesley Publishing Company.
- Blass, Laurie and Meredith Pike-Baky (1996) *A Content-Based Writing Book* (3rd Edition). McGraw-Hill Companies.
- Burleigh, David and Leonard Sanders (1995) *Write Up: From Sentences to Paragraphs*. Macmillan/Language House.
- Case, Doug and John Milne (1982) *Developing Writing Skills in English*. Heinemann.
- Case, Doug and John Milne (1983) *Extending Writing Skills in English*. Heinemann.
- Chenoweth, Ann and Curtis Kelly (1988) *Basics in Writing: Tasks for Beginning Writers*. Lingual House.
- Coe, Norman, Robin Rycroft and Pauline Ernest (1983) *Writing Skills: A Problem-solving Approach*. Cambridge University Press.
- Dean, Michael (1988) *Write It: Writing Skills for Intermediate Learners of English*. Cambridge University Press.

- Ellington, George (1995) *Writing through the Skills*. Macmillan/Language House.
- Grellet, Françoise (1996) *Writing for Advanced Learners of English*. Cambridge University Press.
- Hogue, Ann (1996) *First Steps in Academic Writing*. Longman.
- Ingram, Beverly and Carol King (1987) *From Writing to Composing: An Introductory Composition Course for Students of English*. Cambridge University Press.
- Kelly, Curtis and Ian Shortreed (1985) *Significant Scribbles: Writing for Fluency*. Lingual House.
- Lawrence, Mary S. (1996) *Writing as a Thinking Process (2nd Edition)*. University of Michigan.
- Littlejohn, Andrew (1991) *Writing 2*. Cambridge University Press.
- Littlejohn, Andrew (1993) *Writing 3*. Cambridge University Press.
- Littlejohn, Andrew (1994) *Writing 4*. Cambridge University Press.
- MacAndrew, Richard and Cathy Lawday (1993) *Cambridge First Certificate Writing*. Cambridge University Press.
- Oshima, Alie and Ann Hogue (1997) *Introduction to Academic Writing (2nd Edition)*. Longman.
- O'Dell, Felicity (1996) *CAE Writing Skills*. Cambridge University Press.
- Segal, Margaret Keenan and Cheryl Pavlik (1996) *A Writing Process Book (3rd Edition)*. The McGraw-Hill Companies, Inc.
- Smalzer, William R. (1996) *Write to Be Read: Reading, Reflection and Writing*. Cambridge University Press.
- Stephenes, Mary (1992) *Practise Advanced Writing: Analysis and Practice for CAE and Proficiency*. Longman.
- Stephens, Mary (1996) *Practise Writing (2nd Edition)*. Longman.
- Suid, Marry and Wanda Lincoln (1989) *Recipes for Writing: Motivation, Skills and Activities*. Addison-Wesley.
- White, Ron (1986) *Writing Away*. Lingual House.
- White, Ron and Don McGovern (1994) *Writing*. Prentice Hall International.
- Withrow, Jean (1987) *Effective Writing: Writing Skills for Intermediate Students of American English*. Cambridge University Press.